

平成24年度開催公開講座一覧

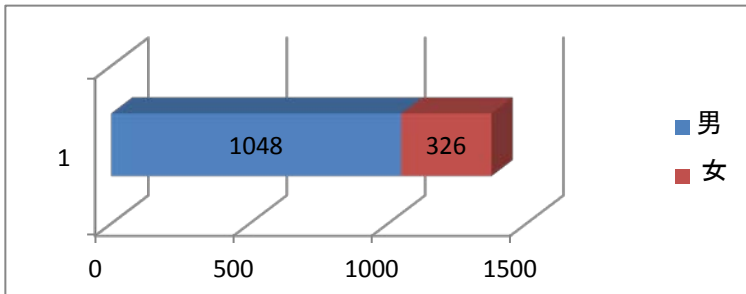
担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	参加人数
公開講座委員会	実践する経営学 —ケースで学ぶ経営学	企業などのケースを通じて、経営学の基本的知識・先端的知識を学ぶ。研究者と実務家のコラボレーションにより、経営の実践と理論とのつながりを学習する。 テーマとして、経営戦略、競争戦略、経営組織、マーケティング、イノベーション、技術経営、提携などがとりあげられる。 第1回「経営戦略を学ぶ」 第2回「組織マネジメントを学ぶ」 第3回「マーケティングを学ぶ」 第4回「技術経営を学ぶ」 第5回「戦略提携を学ぶ」 第6回「グローバル経営を学ぶ」	山倉 健嗣 (横浜国立大学 経営学部 教授) 山岡 徹 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究所 准教授) 梅野 匡俊 (横浜国立大学 成長戦略研究センター 講師) 安本 雅典 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) ヘラー・ダニエル (横浜国立大学 経営学部 准教授 /東京大学 ものづくり経営研究センター 特任研究員) 周佐 喜和 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授)	9月7日 (金) 9月14日 (金) 9月21日 (金) 9月28日 (金) 10月5日 (金) 10月12日 (金)	【学外】 横浜ビジネスパーク ウエストタワー7F 大会議室	921 (6回合計)
教育人間科学部	熱中症予防と服装の関わりを考える 猛暑・節電の夏を乗り切るには	昨年の東日本大震災の影響で夏季の節電対策の一環として衣服の役割が注目されましたが、衣服は熱中症予防や健康・快適性維持にも貢献することが期待されています。暑熱環境下で温熱的快適性を維持するためにはクールビズで象徴されるような環境共生型の衣服の着方が大切です。季節に適合し、環境にも優しく、着用者自身にとっても快適な衣生活を営むためには、なにが重要であるのか、一緒に考えましょう。	薩本 弥生 (横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	8月12日 (日)	教育人間科学部講義棟 7号館103教室	36
	学び直しの小学校理科 (物理編) ～電磁気に関する実験やものづくり～	小学生がどんな勉強をしているのかを知りたいお父さんやお母さん、理科に苦手意識のある学生のみならず、ものづくりを体験してみたい社会人のみなさん、もう一度、小学校理科を学んでみませんか？実験やものづくりを通して、小学校理科で学ぶ電磁気に関する基本的な内容を再確認し、日常生活での活用例もみていきます。	平島 由美子 (横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	11月10日 (土)	教育人間科学部第2研究棟 316室 (物理学大実験室)	13
	気持ちよいストレッチと 身近な環境でできる体力増進運動	身近な環境でも、工夫次第で多様な運動を行うことができます。本講座では、健康・体力増進のための目標の立て方とそれに応じたトレーニングプログラム立案の方法を、講義と具体的な運動の行い方の紹介の実技講習を行いたいと思います。	伊藤 信之 (横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	12月1日 (土)	教育文化ホール中集会室	33
経済学部	EUを考える 過去・現在・未来	現在、その帰趨が世界的に注目されているEUをとりあげ、経済問題を中心に「歴史からみたEUの現在」、「EUの金融危機」、「EU各国財政の展望」の3つのテーマを設定し、それぞれの専門家が講義を行う。	石山 幸彦 (横浜国立大学 経済学部 教授) 上川 孝夫 (横浜国立大学 経済学部 教授) 伊集 守直 (横浜国立大学 経済学部 准教授)	10月10日 (水) 10月17日 (水) 10月24日 (水)	教育文化ホール中集会室	157 (3回合計)
理工学部	高校生向けバイオ実験体験講座	横浜国立大学理工学部化学・生命系学科バイオ教育プログラムでは、これまで日本生物工学会等の支援を受け、神奈川県内の高等学校の協力校と「高校生向け実験体験プログラムの開発」に取り組んできた。本講座は、これらの成果を神奈川県大学発・政策提案採択事業として神奈川県教育委員会の協力を得て、公開講座を実施する。	栗原 靖之 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 坂垣 宏 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 尾形 信一 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 鈴木 市郎 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 吉田 聡 (キリンビール株式会社)	12月22日 (土)	生物・電子棟4F (401室) および同棟3F実験室	12
工学研究院	第6回 海洋空間のシステムデザイン カップ ひれ推進コンテスト	本コンテストでは、高校生に海や船・物造りの魅力を伝えるために講義とコンテストを実施する。まず7/16 (海の日) に船や魚のひれに関する公開講座として講義を実施する。その後、8/25までに各高校の参加チームにひれ推進模型を製作してもらい、これらを大型実験水槽にて走らせ、そのスピードを競うコンテストを行う。なお、講義の内容は以下の通りである。 (1) 船はどんなふうによく泳ぐの？ (2) 船はどうやったら速く走れるの？ (3) 魚はどんなふうによく泳ぐの？	鈴木 和夫 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 和田 大志 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 村井 基彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 川村 恭己 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 平川 嘉昭 (横浜国立大学 大学院工学研究院 助教) 高山 武彦 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	7月16日 (月・祝) 8月25日 (土)	船舶海洋工学棟3階講義室、 大型実験水槽	167 (2回合計)
	実践機器分析基礎講座 (1) 機器分析を利用した有機分子構造解析の実践 -機器の選択とアプローチ-	分子構造解析は物質の性質を考える上で極めて重要なアプローチです。本講座は分子構造解析の初心者や実務者を対象とし、『有機分子構造解析において分析機器をどのように選択し利用したらよいか』を理解するために、核磁気共鳴装置 (NMR) および質量分析装置 (MS) と中心として実際の測定を交えて学習します。	内藤 晶 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 川村 出 (横浜国立大学 大学院工学研究院 助教) 金子 竹男 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 廣田 洋 (横浜国立大学 機器分析評価センター 客員教授) 石原 晋次 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員)	8月23日 (木) 8月24日 (金)	機器分析評価センター	4
	—講義・実験を通じて学ぶ— 材料の劣化とその対策	工業材料は、自らあるいは環境との相互作用によって劣化し、莫大な損失を生ずる。本講座では、実際上の問題点をふまえて、材料の劣化とその対策について基本となる原理を平易に解説する。また講義内容の理解を深め、これを体得するための実験、実習および演習を併せて行う。	朝倉 祝治 (横浜国立大学 名誉教授) 関根 和喜 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 特任教授) 清水 紘治 (元・関東学院大学 工学部 教授) 東田 賢二 (九州大学 大学院工学研究院 教授) 石井 正義 (元・日石エンジニアリング 技術本部技術センター 部長) 高橋 宏治 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 笠井 尚哉 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 准教授) 澁谷 忠弘 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 長田 俊郎 (横浜国立大学 共同研究推進センター 特任教員 (研究教員))	9月3日 (月) 9月4日 (火) 9月5日 (水) 9月6日 (木) 9月7日 (金)	講義：教育文化ホール (大ホール、中集会室、小集会室) 実験：化工・安工棟、 リカレント教育実験棟	27
	実践機器分析基礎講座 (2) 電子線を用いる固体試料の観察及び分析	本講座は固体試料の観察及び元素分析の初心者や実務者を対象とするものです。固体試料の観察でよく用いられる、走査型電子顕微鏡 (SEM)、透過型電子顕微鏡 (TEM) および電子線マイクロアナライザー (EPMA) を用い、原理・構造や試料調整方法等の基礎を紹介するとともに、これらの装置を用いて実習を行います。	梅澤 修 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 吉原 美知子 (横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授) 近藤 正志 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 根岸 洋一 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員)	9月6日 (木)	機器分析評価センター	4

担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	参加人数
工学 研究院	セラミックス材料の開発と利用のための基礎と実際	セラミックスをこれから学ぼうとする社会人技術者を対象として、セラミックス材料を構成する原子や分子の性質、材料の物理的、化学的性質について述べ、その材料の成形方法及び焼結方法、結晶構造および電気的、力学的特性に関して解説します。 また、諸特性を知るのに重要な状態図の見方を述べるとともに、演習も行います。	横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	9月13日 (木) 9月14日 (金)	理工学部C講義棟101室	3
	持続可能な水道システムの確立 産学公連携による水道システムの高度化	水道はライフラインとして重要な地位をしめています。我が国の水道技術は極めて高く世界的に指導的立場にあることも周知の事実です。しかし、一方では老朽化に伴う管路更新技術、省エネルギー技術、災害時における水の安定供給、などの問題も多く抱えています。 前年度に続いて本年度も公開講座「持続可能な水道システムの確立」を開催いたします。本年は産学公連携による高度技術の確立に向けた事業の事例と新しい水道技術の可能性について講演を行います。また、水道技術の高度化の一端として水道システムの潜在危険についての事例についても検討します。	朝倉 祝治 (横浜国立大学 大学院工学研究院 名誉教授) 他未定	8月30日 (木) 8月31日 (金)	理工学部C講義棟201室	79
	実務技術者のための機器分析入門 —走査型顕微鏡・X線マイクロアナライザー・X線回折—	初めて走査型顕微鏡、X線マイクロアナライザー、X線回折の各装置をあつかう者の立場にたつて、各装置の原理、得られる情報、その評価方法と応用などについて説明致します。さらに使用上の注意を述べるとともに、X線による物質の同定方法についての演習を行うと同時に、走査型電子顕微鏡の実習も行います。	横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	9月27日 (木) 9月28日 (金)	理工学部C講義棟101室、VBL、 機器分析評価センター	4
	—実験実習を通して学ぶ—センサの原理と利用法	本講座は、産業界でよく利用される8種類(温度、ひずみ、圧力、光、近接、超音波、ガス、磁気)のセンサデバイスを題材に選び、センサの基本原則と近年の技術動向について講義を行います。さらに講義内容に密着した実験実習を行い、基本的な動作特性の把握と駆動方法について実験を通して習得できます。	岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 塩澤 浩明 (新コスモス電機(株) 課長)	10月17日 (水) ~10月19日 (金) 11月15日 (木) ~11月16日 (金) 12月12日 (水) ~12月14日 (金)	理工学部C講義棟101室、 リカレント教育実験棟	2
	エンジニアのための実験講座① —腐食防食の評価・計測技術—	本講座では、腐食防食の評価に用いられる電気化学的な計測技術に焦点を当て、その原理と具体的な測定方法について講義と豊富な実験により習得いただけます。講座内容には、電気化学及び腐食防食工学の基礎的内容を把握されていることを前提とした部分もあります。【本学主催の基礎講座(「—実験実習を通して学ぶ—センサの原理と利用法」等)を受講されることをお勧め致します。】	岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師)	1月24日 (木) 1月25日 (金)	理工学部C講義棟101室、 リカレント教育実験棟	5
	エンジニアのための実験講座② —ステンレス鋼の腐食防食基礎とその対策技術—	本講座は、ステンレス鋼の腐食とその対策技術など多岐にわたる学際的な内容を提供致します。また腐食—ステンレス鋼の腐食防食基礎とその対策技術— 事例を紹介しながら講義・実験を行いますのでより理解を深めていただくことができます。なお、受講にあたっては、本内容に関連した本学主催の腐食防食基礎講座をあらかじめ受講されることをお勧め致します。	岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 梶村 治彦 (新日鐵住金ステンレス(株) 研究センター リサーチ・フェロー)	2月14日 (木) 2月15日 (金)	理工学部C講義棟101室、 リカレント教育実験棟	3
環境 情報 研究院	豊かな自然環境に囲まれた暮らしを守るための、日本と世界の取組み 本学の学長および教員が取り組む自然環境保全の最前線	1. 序論：生態系は語る—人間は環境の奴隷なのか？ 2. 生態系裁判物語—裁判は自然保護に役立つのか？ 3. 日本の「自然公園」の仕組みと課題—特にその「適正な利用」について 4. 知床世界遺産ではたした科学委員会と漁業者の役割 5. ユネスコMAB計画による自然環境の保全と利用を通じた地域活性化の取り組み	鈴木 邦雄 (横浜国立大学 学長) 及川 敬貴 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 加藤 峰夫 (横浜国立大学 大学院国際社会科学部 教授) 松田 裕之 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 酒井 暁子 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授)	9月8日 (土)	教育文化ホール 大集会室	77
	脳の働きと人工知能の可能性 頭の中の仕組みを知りましょう	本講座では、人間の脳の生理学的側面から脳の構造と機能について説明します。自分の頭の中身がどのようなになっているのか知る絶好の機会です。さらに、機械工学および情報工学の側面から、脳を人工的にコンピュータ上で創る試みについて現状を紹介し、人工知能の可能性について言及したいと思います。	森下 信 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授)	11月10日 (土)	環境情報1号棟 306室	27
都市 イ ノ ベ ー シ ョ ン 研 究 院	都市交通最前線	今年度は、バス、オートバイ、自転車、歩行者などに着目して、海外の興味深い事例を紹介していきます。 昨年度に調査で訪れた都市のうち、特に、北米のシアトル、南米のクリチバ、マリンガ、ボゴタ、欧州のオース、リヨン、ナント、パリ、豪州のアデレード、アジアからはジャカルタ、バンコクなどに焦点をあてて、日本が何を学ぶべきか、考えてみたいと思います。	中村 文彦 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授)	6月16日 (土)	【学外】 YCC (YOKOHAMA CREATIVECITY CENTER) ヨコハマ創造都市センター	103
	フランス語圏の世界を知る フランコフォニーと言語文化的多様性	フランス語が使用される地域、フランス語圏は世界5大陸に広がっている。講座では、その経緯と言語状況から学ぶ。続いて、いくつかの諸国・地域を例に、フランス語とその他の言語が併用される多言語状況を映像とともに確認する。講座の目標は、一国家=一言語という概念と、言語のもつ重要性の見直しを促すことにある。	長谷川 秀樹 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) 鳥羽 美鈴 (関西学院大学 社会学部 助教)	10月13日 (土) 10月20日 (土)	教育文化ホール 中集会室	102 (2回合計)
	国際都市横浜と人々の移動 アジア、アフリカ、アメリカからやってきた人々	国際都市横浜を人の移動に焦点をあてて講義を行う。連続5回。 アジア、アフリカ、アメリカから横浜にやってきた人々の動きを追いながら、彼らの目に映る横浜の姿を通して、国際化の意味するもの、そして国際都市横浜の過去・現在・未来を展望する。 1 川添裕 (教育人間科学部人間文化課程 教授)「幕末横浜で暗躍したアメリカ人興行師」 2 松原宏之 (都市イノベーション研究院都市地域社会専攻 准教授)「日米関係に見る横浜」 3 松本尚之 (都市イノベーション研究院都市地域社会専攻/教育人間科学部人間文化課程 准教授)「横浜の中のアフリカ」 4 小ヶ谷千穂 (都市イノベーション研究院都市地域社会専攻 准教授) + レイ・ヴェントウーラ (ジャーナリスト)「フィリピーノの世界から見る横浜コトブキ」 5 加藤千香子 (教育人間科学部人間文化課程 教授) + 白水紀子 (都市イノベーション研究院都市地域社会専攻 教授)「横浜の中の東アジア」	①川添 裕 (横浜国立大学 教育人間科学部 教授) ②松原 宏之 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) ③松本 尚之 (横浜国立大学 教育人間科学部 准教授) ④小ヶ谷 千穂 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) ⑤加藤 千香子 (横浜国立大学 教育人間科学部 教授) ⑥白水 紀子 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授) ④外部講師1名 (フリージャーナリスト) ①~⑤は、各テーマ番号の講師を示す	10月27日 (土) 11月3日 (土) 11月17日 (土) 11月24日 (土) 12月1日 (土)	教育文化ホール 大集会室 (初回のみ教育人間科学部講義棟 7号館101室)	272 (5回合計)

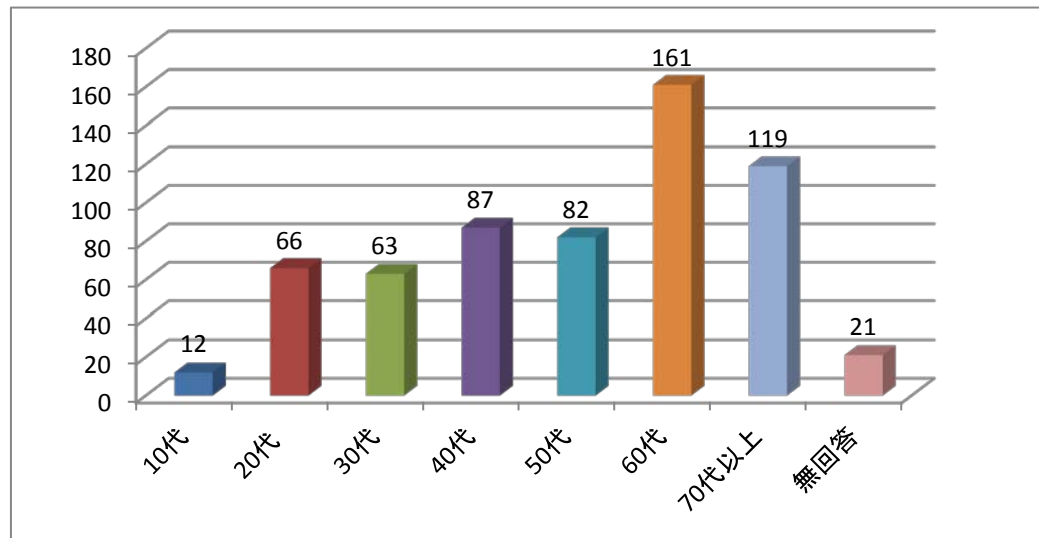
担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	参加人数
留学生センター	日本語で国際交流 世界の日本語教育	外国籍住民への日本語支援活動は、地域において市民ボランティアの方々により活発に行われています。横浜国立大学の留学生もその大きな恩恵を受けています。今回は、これから市民ボランティアを始めようと考えている方、また、すでに活動している方々を対象に、留学生の出身地における日本語教育事情について概説し、最後に留学生との交流の場を設けたいと考えてます。キャンパスでの活動と地域での生活をつなげる活動にもご参加いただくきっかけを作っていきたいと思います。	四方田 千恵 (横浜国立大学 留学生センター 教授) 小川 誉子美 (横浜国立大学 留学生センター 教授) 奥野 由紀子 (横浜国立大学 留学生センター 准教授)	6月10日 (日)	留学生センター306	33
情報基盤センター	安全安心なWiFi無線LANの実践 自宅やオフィスでセキュアな無線LAN環境を構築するために	近年、ノートPCやスマートフォンなどのモバイル端末が普及するに連れてWiFi無線LANの利用が増えてきました。しかし、そこには安全な無線LANへのアクセス環境の確保が重要です。本講座では、安全安心に利用できるWiFi無線LAN環境を構築するための注意点を解説した上で、実際にブロードバンド無線ルータを用いたWiFi無線LAN環境の構築を実践していただきます。	徐 浩源 (横浜国立大学 情報基盤センター 教授)	6月9日 (土)	情報基盤センター 1階A教室、3階講習会室	21
統合的 海洋教育 研究センター	統合的な海洋管理に向けて 「海を管理する」・「海を守る」 II	本講座は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」に関係する様々な話題を提供いたします。本講座を通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野を持っていたくことを目的としています。「統合的な海洋管理を考える II」では、「海を管理する」と「海を守る」に力点をのいた講義を展開します。	中原 裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育研究センター 特任教員 (教授)) 來生 新 (横浜国立大学 統合的海洋教育研究センター 客員教授) 松田 裕之 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 角 洋一 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 谷 和夫 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授) 村井 基彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 佐々木 淳 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授) 他	4月9日 (月) ~7月23日 (月)	教育文化ホール 中集会室	21
	統合的な海洋管理に向けて 「海を知る」・「海を利用する」 I	本講座は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」に関係する様々な話題を提供いたします。本講座を通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野を持っていたくことを目的としています。「統合的な海洋管理を考える I」では、「海を知る」と「海を利用する」に力点をのいた講義を展開します。	中原 裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育研究センター 特任教員 (教授)) 來生 新 (横浜国立大学 統合的海洋教育研究センター 客員教授) 池田 龍彦 (横浜国立大学 大学院国際社会科学部 教授) 伊藤 公紀 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 菊池 知彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 加藤 峰夫 (横浜国立大学 大学院国際社会科学部 教授) 津野 宏 (横浜国立大学 大学院教育学研究科 准教授) 他	10月1日 (月) ~2月4日 (月)	教育文化ホール 中集会室	25
	海洋政策・法制特論 日本の海洋問題を多角的に考える	我が国の海洋政策について基本的知識を得つつ問題分析能力を修得することを目標とし、わが国の200海里水域が直面する政策課題を国際海洋法の理解との関連でテーマ別に分析する。続いて、最新動向としての海洋基本法および海洋基本計画および、今年がその改訂作業時期にあたるので、それについても論じる。なお、理工系の方々にとっても理解が可能なるように包括的に実施する。	中原 裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 特任教員 (教授))	10月3日 (水) ~1月30日 (水)	国経法棟 201室	7
安心・安全の科学研究	防災を意識したベトナム中部の持続的発展と今後の課題	近年、ベトナムは安定した成長を続け、一人当たりGDPが1200USドルに達し、タイ、ラオス、ベトナムを結ぶ東西回廊の新たな役割が注目される一方、自然災害対策や道路・港湾などインフラ整備の遅れなどの課題がある。本セミナーではベトナム中部の防災対策を意識した持続的発展の課題と日本の企業にとっての展望について考える。	Vo Cong Tri (ダナン市 副市長) 小島 岳晴 (JICA 東南アジア・タイ大洋州部 企画役) 北川 香織 (ダナン駐日代表部 主任統括官) 望月 武 (新日本製鐵株式会社 建材開発技術部 部長) 黒川 清登 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 特任教授) 栗山 幸久 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 特任教授)	7月6日 (金)	【学外】 JICA横浜4Fセミナールーム 「かもめ」 〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1	49
GMI 研究拠点	材料の高度化技術と利用のポイント	汎用金属材料の寿命や設計強度を向上させるプロセス技術に不可欠な材料学の基礎と利用のポイントについて概説する。具体的には加工熱処理、表面改質、結晶配向制御などのプロセスがもたらす組織と疲労特性から見た結晶配向の重要性や表面改質の功罪などについて学ぶ。	福富 洋志 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 梅澤 修 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 高木 真一 (神奈川産業技術センター 機械・材料技術部 主任研究員)	10月26日 (金)	生産工学科1号棟 421輪講室	7
安心・安全の科学研究センター	教育機関及び企業の安全衛生管理と人材育成	教育機関及び企業の安全衛生管理の現状と効果的な教育の取り組みの事例を紹介し、今後の課題について考える。	岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 福成 雄三 (日鉄住金マネジメント株式会社 代表取締役社長) 伊藤 通子 (富山高等専門学校 技術室 技術専門員)	11月9日 (金)	【学外】 横浜市開港記念会館 講堂 〒231-0005 横浜市中区本町1-6	78
	市民生活と放射線リテラシー	原発事故で多方面に影響が生じている中、主として横浜およびその周辺に住んでおられる市民の方々を対象として、放射線とは一体どのようなものか、健康に与える影響は、また食物の安全はどのように考えたらよいか、また、リスクマネジメントとリスクコミュニケーションのあり方といった課題について理解を深めます。	益永 茂樹 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 藤江 幸一 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 井上 登美夫 (横浜市立大学 大学院医学研究科 教授) 野村 貴美 (東京大学 大学院工学系研究科 特任准教授) 竹田 宜人 (製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター 課長 / 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 客員准教授)	11月20日 (火)	理工学部講義棟A102	57

各部局開催の公開講座 参加者アンケートの集計結果

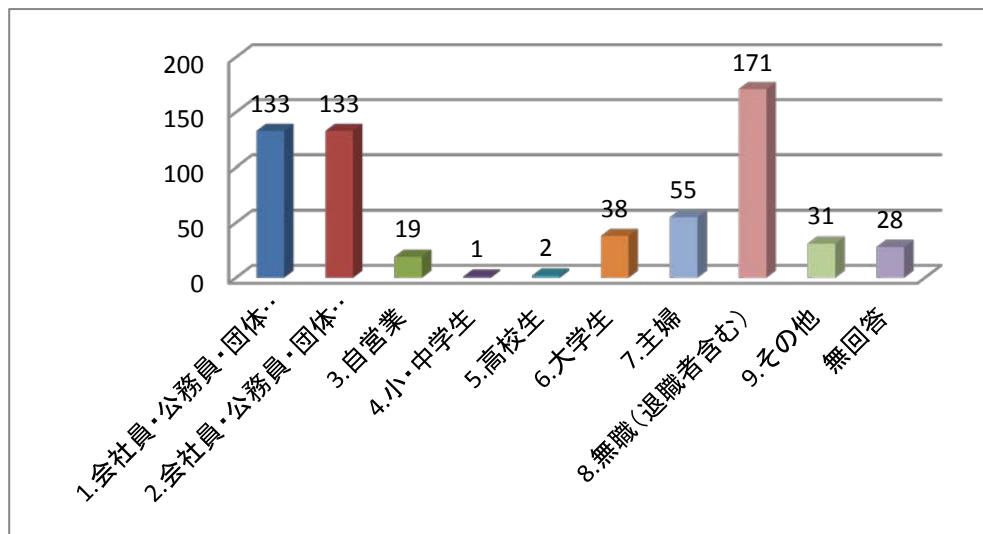
性別



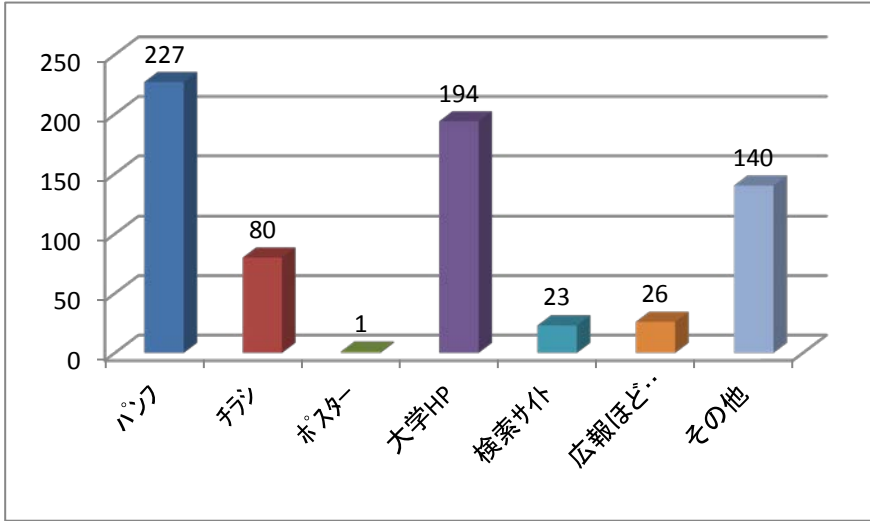
年代別



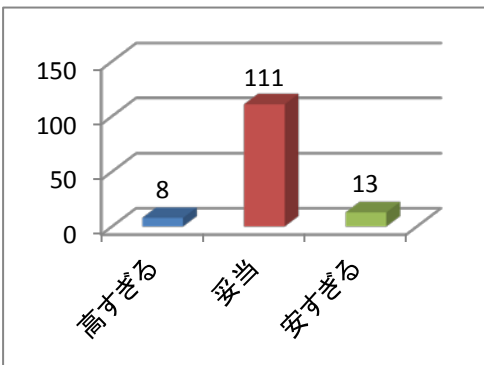
職業別



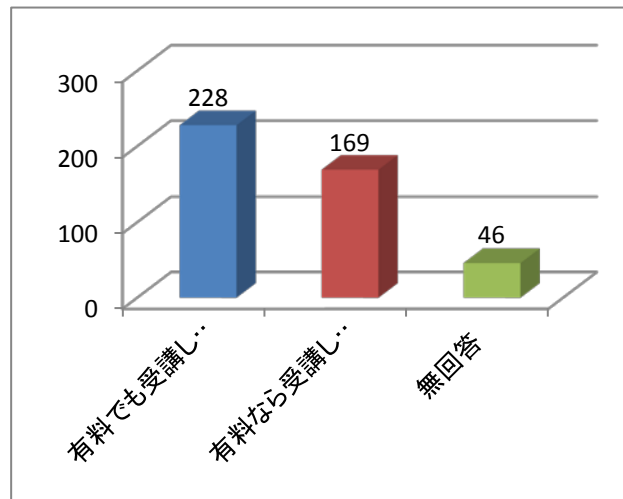
どこで本学の公開講座を知ったか



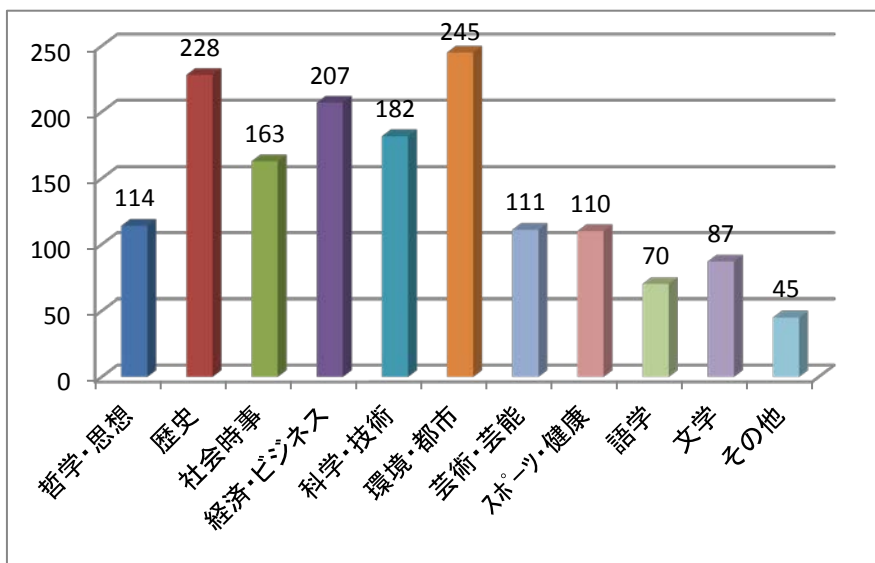
受講料について(有料講座の場合)



受講講座について有料でも受講するか(無料講座の場合)



今後希望するテーマ



公開講座委員会主催

「実践する経営学—ケースで学ぶ経営学—」実施報告

◆総括

本講座は本学と読売新聞横浜支局の共催で、野村不動産の協賛を得て、横浜ビジネスパーク大会議室において9月7日から10月12日にかけて6回開催されました。本年度のテーマは「実践する経営学」であり、企業のケースを通じて、経営学の基本知識や先端的知識を学ぶ講座でした。今までの公開講座の実績、読売新聞での告知、開催場所、経営学への興味などにより、10代から70代以上の幅広い年齢層から252名の申し込みがありました。実際の受講者は平均150名でした。そのうち全出席の方は申込者の37%の94名であり、その受講者に修了証が授与されました。

アンケート結果を見ると受講の動機の88%は「実践する経営学」というテーマへの興味でした。全体で88%の受講生が「よく理解できた」あるいは「ほぼ理解できた」と回答しており、93%の受講生が「非常に有意義であった」もしくは「ある程度有意義であった」と回答しており、今回の講座に対して高い評価が得られたものと考えます。また半数以上の受講生は有料であっても出席すると答えており、受講動機を合わせて考えると経営学関連のテーマへのニーズは高いといえます。

本年度の全学公開講座の実施にあたって、6人の講師の先生はもちろんのこと、熱心に受講された方々、告知や記事掲載をしていただいた支局長をはじめ読売新聞横浜支局の方、講座の実施に心から尽力いただいた事務局の皆様に深く感謝いたします。

◆申込者数 252名

◆申込者の年代

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	総計
人数(名)	1	10	44	68	48	49	19	13	252

◆受講者数（出席カード提出者数）

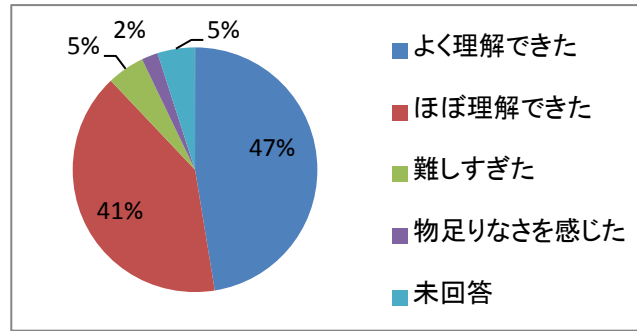
開催日	講師	受講者数（名）
9月7日	経営学部教授 山倉 健嗣	180
9月14日	国際社会科学研究科准教授 山岡 徹	159
9月21日	成長戦略研究センター講師 梅野 匡俊	153
9月28日	環境情報研究院教授 安本 雅典	145
10月5日	経営学部准教授 ヘラー・ダニエル	145
10月12日	環境情報研究院教授 周佐 喜和	139

◆修了証授与数 94名（全6回中、全6回出席した者に修了証書を授与）

平成24年度 公開講座委員会主催
公開講座アンケート結果

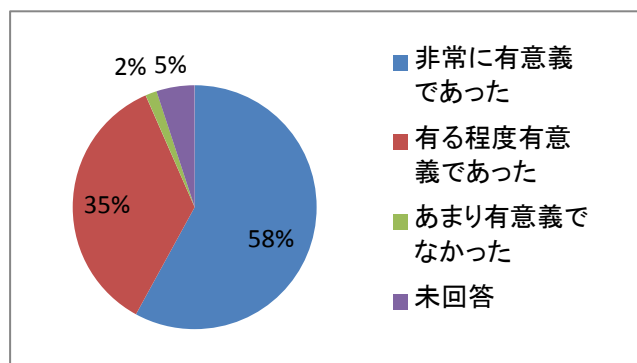
【問1】 講座内容について、いかがでしたか。

よく理解できた	440
ほぼ理解できた	376
難しすぎた	46
物足りなさを感じた	20
未回答	46



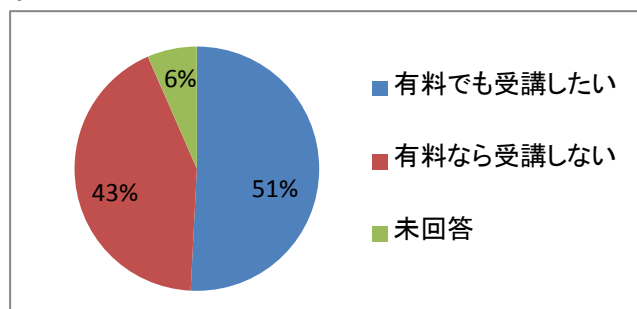
【問2】 受講して有意義であったと思いますか。

非常に有意義であった	538
有る程度有意義であった	329
あまり有意義でなかった	14
未回答	47



【問3】 次回この講座が有料の場合、受講されますか。

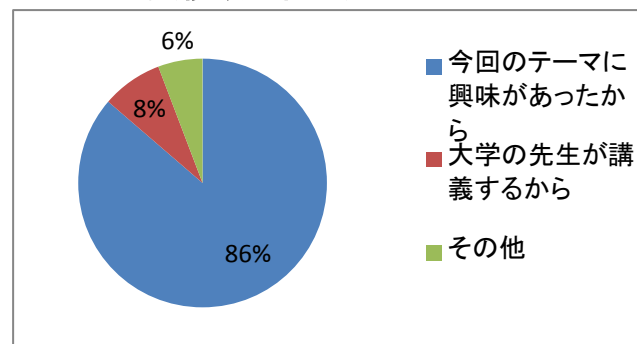
有料でも受講したい	93
有料なら受講しない	78
未回答	12



【問4】 今回の公開講座の受講動機について、教えてください。(複数回答可)

今回のテーマに興味があったから	164
大学の先生が講義するから	15
その他	11

※その他の回答
 ・自分の勉強のため。
 ・母校の恩師の講義であるから。
 ・「経営学」の講義をうけたことがないから。

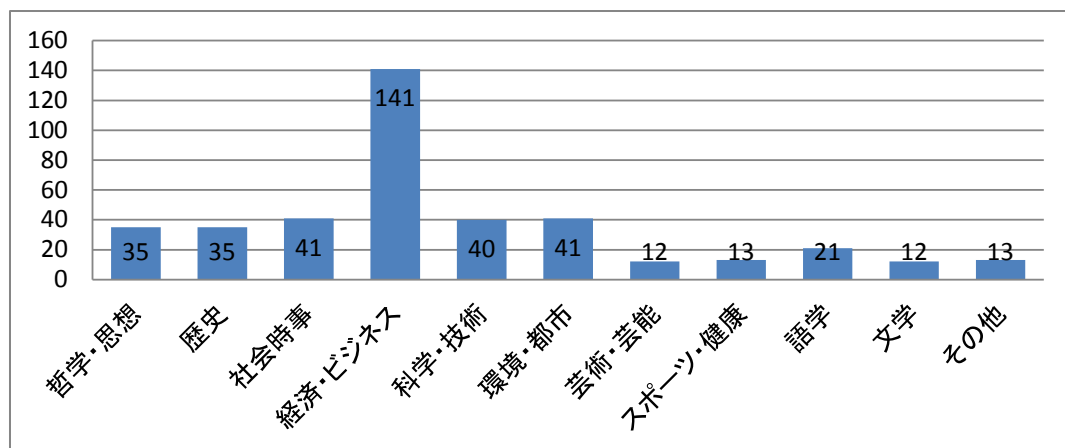


【問5】 今後、どのような内容の講座を希望されますか。(複数回答可)

哲学・思想	35
歴史	35
社会時事	41
経済・ビジネス	141
科学・技術	40
環境・都市	41
芸術・芸能	12
スポーツ・健康	13
語学	21
文学	12
その他	13

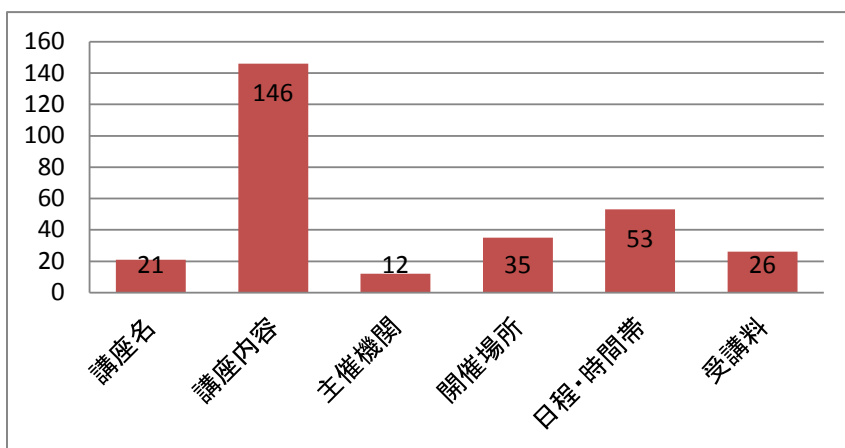
※その他のご意見

- ・教育
- ・文化
- ・国際理解
- ・心理学
- ・法律
- ・知的財産



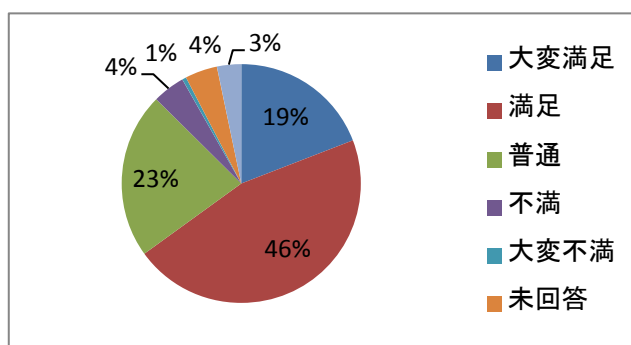
【問6】 公開講座の受講を決める際に、何を重視されますか。(複数回答可)

講座名	21
講座内容	146
主催機関	12
開催場所	35
日程・時間帯	53
受講料	26



【問7】 今回の会場について、いかがでしたか。

大変満足	35
満足	84
普通	41
不満	8
大変不満	1
未回答	8
その他	6



【問8】その他のご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。
(多数のご意見から一部を抜粋しました。)

第1日目(講師:経営学部 山倉健嗣教授)

・育楽市場のテーマは面白かった。AKBマーケティングは新鮮だった。
・マクドナルドやモスバーガー、ヤマダ電機など自分の生活に身近な企業の内容やその歴史を学べた。
・自社において今後の参考にしたい。
・ケーススタディ中心の話は具体的でわかり易い話で大変参考になった。
・現代的な事例が豊富で興味深かった。
・ポーターの5つの要因に興味を持ったので、「競争の戦略」を読みたい。
・テーマがはっきりしていて理解しやすかった。
・最近の戦略論の考えを実例を踏まえて学ぶことができよかった。
・企業らしさの追求という話や音楽消費の変化の話が特に興味深かった。
・富士フィルムの事例は参考になった。5回の講座からヒントを見つけ市場の読みと、新事業発掘のアイデアを見出していきたい。

第2日目(講師:国際社会科学研究科 山岡徹教授)

・講義を聴きながら、自分のチーム運営に置き換えてイメージすることができた。講義を実行に移していきたい。
・自分の立場で迷った時の指導のたてかたの参考にしたい。
・企業変革の実例が失敗も成功もあり大変参考になり理解しやすかった。
・トップ経営人を総動員して全行的に色々と実施した頃のことを思うと、本日の先生のお話がそれに関連して来るものを感じた。とても有意義な話が聞けた。
・本日のテーマは逐一、自分が葛藤してきたことと合致、自分の生き様の整理、反省ができたような気がした。
・現在かかえている問題についての解決策への手がかりをなる様な講義で大変参考になった。
・ビジネスにおける「変革」は厳しいドライなイメージが強かったが、前提条件としての信頼関係が必要であるとの考えが意外であり驚いた。
・ミッション・ビジョン戦略それぞれの役割と重要性を認識でき、その方法についてかなり具体的に説明を受け、自分たちの不足している部分について再認識することができた。
・変革と実行その前段階の巻き込む為の環境、社員の意識、状況理解が重要ということにとっても共感した。
・大企業であればステージごとの研修で学ぶことができる内容を無料で受講できて非常に有意義だった。 (1万円以上の価値があった)
・有名な会社の例をいくつも挙げて説明してもらったので、経営について勉強をあまりしたことがない人間にもわかり易かった。
・レジュメ、資料は後の復習にも十分使え、何度も読み替えたい資料であると思った。

第3日目(講師:成長戦略研究センター 梅野匡俊講師)

・清涼飲料水という身近なテーマで非常に分かりやすい講義だった。時間が限られているので今後も1つの事例に絞って話していただくことを希望。
・マーケティングが具体的な事例で説明され、よく理解することができた。
・キンビール時代の話盛り込んでお話してもらったので、とてもリアルに授業が聞けた。
・シンプルな資料、わかりやすい根拠の説明、伝わる話し方(声質、量)で素晴らしいプレゼンテーションだった。
・自分の知らないモノの価値を知ることができた。
・顧客のニーズ、顧客から認められることの大切さをあらためて考える機会となった。「価値の競争」についても考えてみたいと感じた。
・小売店が売上げる為にはどうしたらいいのだろうか?と考えていたので、今日来てよかった。
・大学教授の授業とは空気が異なりとても分かりやすかった。ブランドという物の価値についていつもとは違う側面から見ることができ、自分の価値観について考えてみようと思った。
・理論と実務の話が聞けた。まず実務で経験し理論と述べることで説得力のある講座であった。
・マーケティング論はかなり変化していると感じた。変化に対応できるような体制に変える必要性を感じた。
・実践での講演なので迫力があつた、これからの仕事に生かしていきたいと思う。

第4日目(講師:環境情報研究院教授 安本雅典教授)

・技術経営の分野の話聞く機会が今まであまりなかったので、勉強になった。
・技術経営という視点での経営学に初めて触れたこともあり非常に難しい部分もありましたが、日本のモノづくりがどうビジネスとつながっていくのか、また日本のビジネス面での弱さという点で興味深い話が聞けてとても良かった。
・中身の濃い講義だった。理解がついていけないところが多かったが、現代の技術経営の課題は掴めた気がする。ルール作りの項もう少し学びたいと思った。
・技術の活用の標準化の場作りで企業理念は重要との事、技術、テクニカルな理系の世界でも精神的な理念はコアな部分でビジネスポリシー作りを支える基本であるように思った。
・じっくり勉強したい気に駆られた。
・自分の職場は福祉業なので企業的な視点で考えることは馴染まないと思っていたが、講義を聴いているうちに応用ができる部分があることに気が付いた。今後参考にしたいと思った。
・企業の専門化、役割分担、チームワークの必要性がよくわかった。
・自動車メーカーに勤めているが、とても参考になった。他社に売れる技術の重要性がよくわかった。
・技術経営のベースは経営学・経済学・社会学等であることがよくわかった。
・技術経営においても戦略の重要性を痛感した。
・今までの講座の中で、一番興味深く理解できた。資料も非常に分かりやすく、また受けたいと思えた。
・技術マネジメントに対して非常に興味を持っていたので、今回の受講は大変有意義であった。確かに日本の技術力は、それらの文献に書いてあるような低下は起こっていない。あくまでIT業界の一部であるプログラミング能力だけである。しかしこれすらも基本努力家である日本人はこの弱点を克服しつつある。本講座ではこのことを否定しつつも、日本の技術マネジメントにおける企業の弱点を「ポジショニング」と「標準化」としているところに大いに賛同する。
・日本企業の落ち込みの理由がよく分かった。自社のみで独占(技術・販売etc)してしまうと、短期的にはそして狭い市場では利益は上げられるものの、中長期的には世界に向けた製品は作れない。今こそ自社の利益のみでなく、他社の利益も考えることで逆説的にローコスト、高品質、ニーズにあった製品が長期的に供給できるのだろう。また企業の生き方も多種多様であり、中小企業の生き方のヒントがまさにここにあると感じた。

第5日目(講師:経営学部 ヘラー・ダニエル准教授)

・ティーチングのメリットについて、提携というかカテゴリー以外に社内部門間や上層者と部下との関係においても展開できる(すべき)のものであると感じた。
・ティーチングすることで、自社の内なる能力を促進するという言葉はとてもためになった。個人のケースでも当てはまる。学ぼうとする姿勢をみせない人、拒否しようとする人に対しても腐ることなく、自分がティーチングする意欲をもって臨めば自分に対して成果が出てくるものなのだと考え、今後取り組んでいきたいと思う。
・現在、取引している量産ベンダーが正に学習しない組織で、しかし当社が一方的にでもティーチングしないと量産が進まないため苦勞している。そのため、とても楽しく講義を受けることができた。
・育った文化教育が異なる国の人々が講師としてなることは大変良いこと。色々な見方を知ることが良かった。
・”学習する”という言葉のイメージが変わった。ラーニングすることも自己のラーニングする欲求の大きさにより得られる成果の大きさも変わるものと思う。
・言葉をおきかえ、今迄で一番解りやすい説明であった。
・ラーニングアライアンスの世界を垣間見ることができた。「ものづくり経営学」を読みたいと思う。
・提携といった選択肢が企業の閉鎖感を打開する可能性を感じた。競合他社から学ぶ方法を考えることが重要であることを理解した。
・「相手を知ること」と「己を知ること」を通して、《戦略提携》とは何かを改めて考えることができた。「学習」学ぶ姿勢を忘れず、前向きにとらえ努力していきたいと思う。
・「ティーチングの効果」メリットの3種類、とても勉強になった。ティーチングにより仮に提携が失敗であっても成果があるというのは重要な示唆であると感じた。また、資本関係が必ずしも能力の上下を示すものではないというのも考えていかなければならないと思う。今後、新聞等でアライアンスの記事の読み方が変わってくると思う。
・提携の効用—目的は、外から理解することは大変難しいがポイントをまとめ、簡潔に説明されてたので有意義だった。
・ヘラー先生の授業は院生時代から好きだった。間違えなく今、私が経営学を研究する方法論は先生から御教授してもらったものである。ヘラー先生の視点は、日本人のモノと違い非常に客観的であり、このことは経営学の研究というものにとっても重要だと思う。日本人の身内の感情のない忌憚のない講座は刺激的なものだった。

第6日目(講師:環境情報研究院 周佐喜和教授)

・第1回から第6回に渡り、受講させていただいたが、第6回のテーマが適切に企画されたものであり、経営学全般及び具体的な役割が理解でき、極めて有意義であった。関係者の皆様に敬意を表します。

・リバーシノベーションにおいて、“既存の日本人ではダメ!”という言葉、日本のパラダイムの変化に向け、とても力強いメッセージになったのではないかと思う。また、自らも新たな意識・価値観を持ってグローバルな市場に飛び込んで行こうと思う。深い学びを提供いただき有難うございました。

・グローバル化の底流の考え方が理解できた。

・グローバル経営の成功要因とした現地子会社の能力の高度化が重要ということが印象に残った。

・HOYAの新規分野進出の事例が参考になった。現代のグローバル経営に求められる発想の転換が理解できた。

・具体的な事例紹介で大変面白い話だった。

・日本の押しつけでなく、海外(特にアジア)で独自に開発、製造、販売の事業活動をすべきかが分かった。今後、色々と考えさせられると思う。

・これまでにない技術を使った新製品の開発のみで生き残れる時代は終わりつつあるということがよくわかった。新聞等でこのような傾向はなんとなくつかめていたが、具体的事例を見せていただき、その感を強くした。

・経営学とは6回の講座を勉強させていただき、ビジネスだけでなく、社会・人・法治まで全てに実践する学問と改めて感じられた。私自身、経営学部で学生時代学んだ環境とは異なり、10年以上社会に出て見える社会の仕組みと疑問とリンクさせ学ぶ機会を設けて頂いたことに大変感謝している。

・国大が自分の近い場所にありながら、中々お近づきになれなかったのが今回少し近づけたように感じうれしかった。今後も是非このような講座を開いてもらえれば有難い。